

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

|            |  |       |        |
|------------|--|-------|--------|
| 開催月日       | 令和7年 11 月15日(土)~11月16日(日)  |       |        |
| 開催時間       | 令和7年月11 月15日(土) 9:30~12:30   |       |        |
| 開催場所       | 札幌コンベンションセンター 1F特別会議場  |       |        |
| 主催者        | 一般社団法人日本子ども虐待防止学会<br>・日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほっかいどう大会実行委員会   |       |        |
| 研修会等の名称    | 日本子ども虐待防止学会 第31回学術集会ほっかいどう大会   |       |        |
| 講師等の氏名等    | 座長:松本 伊知朗氏(北海道大学名誉教授)<br>演者:大谷 美紀子氏(大谷パートナーズ法律事務所/元国連子どもの権利委員会委員)  |       |        |
| 内容・結果等     | 【演題】子どもの権利—暴力のない社会を目指して  |       |        |
|            | 世界人権宣言第1条…「すべての人間は生まれながらにして自由でありかつ尊厳と権利とについて平等である」子どもが自身の権利を知り、エンパワーされる。   |       |        |
|            | 大人が子どもの権利を知り、子どもを権利の主体として子どもに接する。  |       |        |
|            | 【大会共通企画シンポジウム】   |       |        |
|            | 【演題】子どもの権利を考える視点、姿勢を問い直す   |       |        |
|            | 座長:井出 智博氏(北海道大学大学院教育学研究院准教授) 特別参加:大谷 美紀子氏  |       |        |
|            | ・「子どもの「声」とこどもの権利児童養護施設における『子どもの権利ノート』から考える」  |       |        |
|            | 演者:長瀬 正子氏(佛教大学社会福祉学部社会福祉学科准教授)   |       |        |
|            | ・「子ども時代のポジティブな体験:「子どもの権利が豊かに具現化された日々の暮らし」の保障に向けて   |       |        |
|            | 演者:山口 有紗氏(子どもの虐待防止センター/国立成育医療研究センター)   |       |        |
|            | ・「性暴力被害をめぐって—子どもを守ることとこどもの権利を尊重することについて  |       |        |
|            | 演者:斎藤 梓氏(上智大学総合人間科学部心理学科准教授)   |       |        |
|            | 【感想】   |       |        |
|            | 子どもの権利条約12条は、自分の意見を言う権利「意見表明権」があり、「子どもを半人前扱いせず大人(社会)はその意見を真剣に考慮しなければならない」という、子どもの尊厳と主体性を認める重要なルールがある。ありのままの自分を認め、愛せる感覚を持つ自己肯定感を高めるためには、子ども時代のポジティブな体験が大事である。性暴力については、子どもの権利や安全は守られているのだろうかと思が心に刺さった。子どもの権利が社会を変えていくことを学んだ。 |       |        |
| 上記活動に要した経費 | 経 費 の 内 容  | 支 払 先 | 金額(円)  |
|            | 研修費  |       | 12000  |
|            | 旅費・宿泊費   |       | 84,780 |
|            | 振込手数料  |       |        |
|            | 合 計  |       | 96,780 |

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 開催月日  | 令和7年 11 月15日(土)~11月16日(日)  |       |           |
| 開催時間  | 令和7年月11 月15日(土) 13:40~17:20  |       |           |
| 開催場所  | 札幌コンベンションセンター 1F 大ホールA   |       |           |
| 主催者   | 一般社団法人日本子ども虐待防止学会<br>・日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほっかいどう大会実行委員会                                 |       |           |
| 研修会等の名称                                     | 日本子ども虐待防止学会 第31回学術集会ほっかいどう大会   |       |           |
| 講師等の氏名等                                     | 座長:阿部 康子氏(社会福祉法人北翔会 札幌乳児院) 阿部 弘美氏(オフィス・チカプ)<br>演者:野中 祥子氏(子ども家庭庁支援局虐待防止対策課長)            |       |           |
| 内容・結果等                                      | 【演題】 子ども家庭庁とご一緒に! ~考えよう 子どもの権利   |       |           |
|   | 子どもの権利・子ども真ん中の理念…①差別のないこと ②子どもにとって最も良いこと   |       |           |
|   | ③命を守られ成長できること ④意見を表明し、参加すること   |       |           |
|   | 児童虐待→対策支援…①発生予防・早期発見 ②子育て期の支援 ③家庭への復帰支援  |       |           |
|   | 親子再統合支援事業、社会的養護自立支援拠点事業、若者支援コーディネート事業  |       |           |
|   | 子ども・若者意見表明→日常的に意見を聴く   |       |           |
|   | 〈日本財団スポンサード国際企画〉   |       |           |
|   | 児童福祉の改革をどのように実現するのか?   |       |           |
|   | —「あかし・日本財団・コロラド海外視察研修」での経験をもとに—  |       |           |
|   | 司会進行:高橋 恵里子氏(日本財団) 藤林 武史氏(西日本子ども研究センターあかし)   |       |           |
|   | セッション1「コロラド海外研修の意義と成果」   |       |           |
|   | 演者:三木 馨氏(西日本子ども研究センターあかし) 倉田 宰氏(千葉県中央児童相談所) 磯田知美氏(明石子ども研究センター)                         |       |           |
|   | セッション2「コロラド州における改革」…演者:Joseph Homlar(コロラド州児童福祉課)                                       |       |           |
|   | 聞き手:畠山 由佳子氏(関西学院大学)  |       |           |
|   | セッション3「児童福祉改革におけるLEEの役割」   |       |           |
|   | 演者:Nate Bustamante 聞き手:芦田 拓司氏(西日本こどもセンタ)   |       |           |
|   | 【感想】 前半は、子ども家庭庁からの子どもの権利について学び、その権利を具現化するために意識して日常的に家庭でもフラットに意見を聴く(当たり前)ことが大切であることに共感し |       |           |
| 後半は、実際の体験談を聞いて、必要な支援とは何か、家族を再構築し家族が一緒にいること  |  |       |           |
| さ、そのための必要な支援が大事であり、支援する側、支援される側の信頼がとても大切である |  |       |           |
| 子どもはいつも安全でなければならないの言葉に、大人がそのような環境を整えなければと   |  |       |           |
| 改めて思った。                                     |  |       |           |
| 上記活動に要した経費                                  | 経 費 の 内 容  | 支 払 先 | 金 額 ( 円 ) |
|   | 研修費・宿泊費  |       | (1)に同じ    |
|   | 合 計  |       |           |

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 開催月日       | 令和7年 11 月15日(土)～11月16日(日)  |       |           |
| 開催時間       | 令和7年月11 月16日(日) 9:40～12:20   |       |           |
| 開催場所       | 札幌コンベンションセンター 1F 大ホールA   |       |           |
| 主催者        | 一般社団法人日本子ども虐待防止学会<br>・日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほっかいどう大会実行委員会   |       |           |
| 研修会等の名称    | 日本子ども虐待防止学会 第31回学術集会ほっかいどう大会   |       |           |
| 講師等の氏名等    | 【教育講演6】座長:郷司 青海氏(札幌市養護教諭)<br>演者:北川 聡子氏(社会福祉法人むぎの子会理事長・公認心理士)<br>【大会企画シンポジウム3】 座長:錦木 康夫氏(社会福祉法人常德会興正学園施設長) 「里親の立場から」 演者:北川 聡子氏 (社会福祉法人むぎの子会理事長 ) 「児童養護施設の立場から」演者:堀 浄信氏(社会福祉法人光明童園理事長) 「児童相談所の立場から」 薬師寺 真氏(岡山県倉敷児童相談所所長) 指定討論者 野坂祐子氏(大阪大学大学院人間学科研究科教授) |       |           |
| 内容・結果等     | 【教育講演6】 親子丸ごと支援～むぎのこのお母さん+アメリカ当事者  |       |           |
|            | コロラド州から来日されたネイト氏は、8歳の時に親子分離され、生活の拠り所も点々と。安全なところもなく、声をかけてくれる人もいない。母親からは捨てられたと思い、怒りを込めた生活を送っていた。大人になり家庭を持つが、子どもと離れられ、子どもと一緒に暮らしたいと更生する。現在はペアレントアボケイト(親・全体をサポートする)として活動している。  |       |           |
|            | 子どもの健康は、家族が健康でなければならない。  |       |           |
|            | 当事者として、分離された親子の声を聞いたのかと聞きたい。   |       |           |
|            | 社会的養護のこどもの権利の実現に向けて～支援者を支える取組みを通して～  |       |           |
|            | 【大会企画シンポジウム】   |       |           |
|            | (北川)里親…家庭教育は、孤立しやすくサポートが欠かせない、子どもを救うためには、家族への支援が大事であり、依存先を増やす。   |       |           |
|            | (堀)子どもたちの幸せのために…受援力、情報、コミュニケーションの充実が必要。  |       |           |
|            | 「大人には、育てる責任」がある。子どもたちが自分で選ぶこと、指示ではなく、疑問を持つこと。  |       |           |
|            | (薬師寺)…日々の暮らしの中で(子ども自身が)安全と福利を実感できる支援実践への期待。  |       |           |
|            | 手続き重視の管理的な保護対応が」主流。大人中心→子ども中心  |       |           |
|            | 政府は、児童福祉の実践と労働条件に重要を置いているか!? 本気でやる!!   |       |           |
|            | 【感想】 前半は、それぞれ体験者のリアルな体験談を聞いて想像を絶するような話に胸が痛む思いであった。後半は、それぞれの立場からの話に、まだまだ、子どものことなのに大人中心に物事が動いていると思う。まずは、ミラノ社会を考えた場合、まずは、子どもの声を聴いて、それぞれの立場で本気で考えなければいけないと感じた。   |       |           |
|            | 議員、議会としてできることを本気で取り組むべきと改めて感じた。  |       |           |
| 上記活動に要した経費 | 経 費 の 内 容  | 支 払 先 | 金 額 ( 円 ) |
|            | 研修費  |       | (1)に同じ    |
|            | 旅費・宿泊費   |       |           |
|            | 合 計  |       |           |

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 開催月日       | 令和7年 11 月15日(土)~11月16日(日)   |       |           |
| 開催時間       | 令和7年月11 月16日(日) 13:10~16:45   |       |           |
| 開催場所       | 札幌コンベンションセンター 1F 大ホールA  |       |           |
| 主催者        | 一般社団法人日本子ども虐待防止学会<br>・日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほっかいどう大会実行委員会  |       |           |
| 研修会等の名称    | 日本子ども虐待防止学会 第31回学術集会ほっかいどう大会  |       |           |
| 講師等の氏名等    | <p>&lt;公募シンポジウム&gt; 星野 恵(札幌市教育委員会)座長:今泉 明子氏(社会福祉法人常徳会興正子ども家庭支援センター) 発表者:笠谷 将太郎(札幌市南郷小学校)、高田みのり氏(公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)、竹田 華奈江氏(札幌市南区役所保健・こども課)、佐賀 絵里加氏(特定営利活動法人あい相談室あい)</p> <p>&lt;企画者&gt;東 大地氏(社会福祉法人 浦河べてるの家 座長:村澤和多里氏(札幌学院大学) 発表者:向谷地 亘明氏(メディアン株式会社)、江連 麻紀氏(子ども・子育て当事者研究ネットワークゆるふわ)、内田 梓氏(北星学園大学付属高騰学校SSW)、奥田かおり氏(北海道医療大学)、浦野圭太氏(私立札幌大通高騰学校、菅野那乃氏(高校2年生)、高橋 鈴夏氏(浦河ひがし町診療所デイケア)</p> |       |           |
| 内容・結果等     | <公募シンポジウム>  |       |           |
|            | こどもの埋もれた声を拾い支援に繋げる為に大人ができること ~こどもと家庭を支える地域連携~   |       |           |
|            | 【キーワード】こどもの声 継続的対話 多機関多職種連携と協働  |       |           |
|            | 困った子どもではなく、困っている子ども。「人」と「こと(問題)」を分ける  |       |           |
|            | 原因、指導、評価 「経験は宝」   |       |           |
|            | <企画者>   |       |           |
|            | 子ども当事者研究の可能性 —幼児から青年期それぞれの実践場面から—   |       |           |
|            | 【キーワード】子ども当事者研究 若者支援 虐待防止   |       |           |
|            | 自分助けグッズや爆発する前に休憩が必要。その子の物語がある。大人の方が問題視し過ぎていないか。   |       |           |
|            | 「楽しい人を見たら、楽しくなる」→「ギャルを見て楽しくなった」→「明日学校に行きたい」   |       |           |
|            | 家族以外で自分を理解してもらえた、   |       |           |
|            | 「安心」より「不安」が安心、苦労を水で薄める やわらかく!!  |       |           |
|            | 【感想】子ども当事者の研究として、色々な立場の多くの方が関わっておられることに驚いた。登壇者の高校生の発表に、彼らが自分自身の特性を理解し、懸命に社会と向き合っている様子が伺えた。高校生の生の声として、自分は「不安の専門家」「苦労を水で薄める」など表現力に驚いた。大人は、もっと子どもに向き合うべきであり、日常から子どもの声を聴くことの大切さを実感した。   |       |           |
| 上記活動に要した経費 | 経 費 の 内 容   | 支 払 先 | 金 額 ( 円 ) |
|            | 研修費   |       | (1)に同じ    |
|            | 旅費  |       |           |
|            | 宿泊費   |       |           |
|            | 振込手数料   |       |           |
|            | 合 計   |       |           |